

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	良くなる	スーパー（業務担当）	・8月末での閉店が決定し、来月から閉店前の売りつくしがスタートするので、期間限定ではあるが相当の収益向上が見込まれる。
		コンビニ（販売促進担当）	・消費税増税から1年が過ぎたなかで、比較的高価な電化製品などの動きはやや鈍いが、低価格の食品に関しては、今の状況で推移して良くなっていく。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・春から中国の客船等の入港予定があるので、それに期待している。
		商店街（代表者）	・客の表情や買い方に良いに変化が出ているので、景気上昇に向かう。
		商店街（代表者）	・中心市街地の整備計画がほぼ終わり、東九州自動車道も開通したので、中心市街地に県内外から人が集まる。売上だけでなく、街のにぎわいも増すと期待している。
		百貨店（総務担当）	・消費税増税の影響が一巡し、プレミアム付商品券の販売も好調であることから、一時的にせよ良くなる。
		百貨店（営業担当）	・高級ブランド品や貴金属、美術品が順調に回復しており、食品や健康食品も堅調である。化粧品や紳士向け衣料品に加え、トラベル用品も好調である。催事では、男性向け衣料品や子ども用品のパーゲン、物産展などが好調で、客の購買意欲が向上している。
		百貨店（営業担当）	・消費税増税からちょうど一巡して、前年比では改善しているが、前々年と比較するとまだまだ強さはない。人口が多い団塊世代の消費の減退が大きな原因で、これはずっと続いていく。
		百貨店（売場担当）	・6月にプレミアム付商品券が発行される。どれくらい当店に回ってくるか分からないが、消費の起爆剤の一つとなるのは間違いない。
		百貨店（経営企画担当）	・悪天候等の懸念はあるが、政府の「地方創生」の政策や原油安による燃料原価コストの低減などの影響は、今後、少しずつ出てくる。
		スーパー（経営者）	・夏のボーナス等のアップがあればまた上がってくる。
		スーパー（店長）	・昨年の消費税増税の反動で、衣料品や日用品の売れ行きが好調に上がってくると見込んでいる。
		スーパー（総務担当）	・食料品は継続して売上が好調に推移している。衣料品や住居用品は、消費税導入の影響のない一昨年と比較しても売上が上回ってきた。
		スーパー（統括者）	・売上高が2～3か月前よりも良くなってきている。
		家電量販店（従業員）	・暖かくなるので、冷房器具の需要が増える。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・5～6月は、ゴールデンウィークもあり、普段とは違う客が来店する傾向がある。これから暖かくなり、アイスコーヒー等が出るので、売上も見込める。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格が現状のままでは、満タンにする人が増えそうだ。年休等の消費に期待している。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・4月の売上が3月に対して上向きに改善しているので、今後やや良くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・夏には地元のキャンペーンが、全国規模で開催されることが決定している。夏休み期間と相まって多くの人々が来県するだろう。
		旅行代理店（企画）	・海外旅行は回復していないが、国内旅行は依然として好調である。海外は政治情勢が安定すれば、回復することも考えられる。
		タクシー運転手	・値上げ、格差の広がりなど懸念材料はあるものの、海外の観光客の増加と催し物の充実は安定しており、やや良くなる傾向にある。
		通信会社（企画担当）	・見積り依頼など増えており、受注の増加が見込めている。
ゴルフ場（従業員）	・ゴールデンウィークは昨年を下回る。娯楽に対する意識が、ゴルフよりも家族サービスに向いている。6～7月は梅雨時という不安定な要素もあるが、予約数は多く、少しずつ客数も増える。		
設計事務所（所長）	・官公庁の発注予定はもちろん、民間の計画や企画の持ち込みが増えているので、やや良くなる。		
住宅販売会社（従業員）	・省エネルギー住宅取得にかかわる補助金の対象となるプランでの商談が3月から増え、全体の3分の1強となっている。補助金額が増えたことと、先着順で予算額に達し次第終了になるという内容が、潜在顧客を刺激したようだ。今後2～3か月間は、前年比増につながる可能性がある。		

変わらない

商店街（代表者）	・顧客のある程度を占めている年金受給者は、支給額が実質目減りしているため、消費が進まない。
商店街（代表者）	・来客数が減少気味なうえ、単価の安い商品の回転率が悪く、特定のお得意様からの売上が大半を占めている。
商店街（代表者）	・特別に良くなる理由が見当たらない。落ち込まないように、イベントや販促に力を入れていきたい。
商店街（代表者）	・3～4月は卒業、入学や就職のシーズンであり、5月はゴールデンウィークで出費続きとなる。かなり財布のひもが固くなる。
一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・うなぎの季節になるので、いくらか動きが良くなる。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・景気はまだ一部だけが上向きで、中小企業は消費税増税以後、厳しいのが現状である。消費者の購買意欲を復活させたいが仕入値も上がり、更に厳しくなりそうである。
百貨店（店舗事業計画部）	・最大の商戦である夏のセールが、伸びにくいと予測している。セール自体が大きく伸びなくなっていることに加え、春物衣料の不振を受けた夏物商材の不足が見込まれる。
百貨店（業務担当）	・必要になれば購入を考えるとという客が多いことを考えると、消費購買についての慎重な動きは変わらない。
百貨店（営業統括）	・季節商材である衣料品の動きが厳しい。4月前半からの気温の低下と婦人高齢者の買い控えなどが原因である。本来であれば売上増になるはずが、昨年割れで推移している。
スーパー（店長）	・来月までは消費税増税の反動による売上増が見込めるが、その後は厳しくなる。競合店の出店もあり、価格競争が依然として続くだろう。
スーパー（店長）	・購入単価に二極化傾向がみられるが、それを平均すれば3か月後もそう大きく変化はないと予測する。
スーパー（店長）	・競合店がスーパーからディスカウント店に業態を変えてリニューアルオープンした。
スーパー（店長）	・大型店では外国人観光客が集客に貢献しているようだが、中小のスーパーではそれほど影響が出ていない。値上げした商品が多く、なかなかいい動きが望めない。
コンビニ（経営者）	・特段良くなるような材料は見当たらない。
コンビニ（エリア担当・店長）	・コーヒーとドーナツのセット商品が投入され、客単価は上がりそうだが、ただ、客数が伸びるとはまだ考えにくく、売上自体はそう変わらないだろう。気温が上がるにつれて客数が若干伸びるのを期待している。
衣料品専門店（店長）	・ゴールデンウィーク初日の29日も全く来客がない。初夏向け商品に入替えているが、来店と数が増えるか分からない。
衣料品専門店（店員）	・衣料品も値上がりしてきて、客は慎重になっている。
衣料品専門店（取締役）	・高額所得者以外の顧客は、よく吟味して必要な分だけ買うという傾向がずっと続いている。景気が良くなるかどうかはまだ分からない。
衣料品専門店（チーフ）	・購買意欲が高い客による複数買いが増えてきたが、客数は前年に比べると少し減っている。
衣料品専門店（総務担当）	・毎日の客の動きや来客数等をもてこれからの状況は変わらない。
家電量販店（店員）	・先月は景気が非常に良くなっている印象を持っていたが、駅に大きい商業施設ができたので、そちらに客を取られてしまった。一時的なことかもしれないのでそんなに危惧はしていないが、好転する要素も少ない。
家電量販店（店員）	・3か月後の景気は現状と変わらない。ただ、例年よりも暑くなるというような状況が続けば、変わってくるかもしれない。
家電量販店（総務担当）	・今の状況は1～2か月間、継続する見込みであり、有効な打開策の策定もままならない。
乗用車販売店（従業員）	・新型車の発売予定がなく、受注も増えない。
乗用車販売店（代表）	・新車、中古車とも良い話を聞くことがない。
住関連専門店（経営者）	・4月は景気の回復感がなく、夏にかけて夏枯れと値上げの影響が出る。先の見通しは厳しい。
住関連専門店（店長）	・良くなる要素は特に見当たらないが、だからと言って悪くなることもなさそうだが、天候次第で動きが出るだろうが、とりあえずは安定している。
その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・「母の日」「父の日」の商戦は、単価の維持が精一杯である。ゴールデンウィークは好天が見込まれるので、アウトドアや行楽に消費を取られ、苦戦するだろう。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・今の傾向は、これから数か月間変わらない。

		高級レストラン（専務）	・アベノミクスの影響は、まだまだ九州まで届いておらず、どうなるか分からない状況で不安である。
		一般レストラン（経営者）	・昨年と客数や客単価が全く変わっておらず、予約は少なくなっている。
		一般レストラン（スタッフ）	・何も変わる要素がない。
		観光ホテル（総務）	・3か月収入予測を見る限りでは、変わらない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・上期は、今のところ順調に予約受注できている。
		観光型ホテル（専務）	・他の地域に客が向いているような気配がする。
		都市型ホテル（販売担当）	・5～6月以降の予約状況は、前年より少し悪いが同じぐらいで進んでいる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・現在の予約受注状況から判断して、変わらない。
		都市型ホテル（副支配人）	・インパウンドの動きは東名大、特に大阪が非常に多い。その動きが1年ぐらい遅れて福岡に来るので、この景気は続く。
		旅行代理店（従業員）	・海外はアジアを中心に前年を超えている。長らく低迷していた韓国方面も、順調に回復してきた。国内は、5月までの勢いはないが、ようやく予約が増えてきて前年並みの状況である。
		タクシー運転手	・駅ビルやデパートの開店で、客の流れがとても良く、稼働も良いが、これがずっと続くとは限らない。乗客からも、長くは続かないだろうという声を聞くことが多い。
		通信会社（企画担当）	・節句など季節商材の販売量増加は見込めるが、他に要因は見当たらない。
		通信会社（営業）	・夏商戦及びボーナス商戦が始まり、市場が活性化する。
		通信会社（営業担当）	・良くなるためのきっかけが全くない。
		競輪場（職員）	・給料の年額に変化がない。
		競馬場（職員）	・特段、大きな変更材料がみえない。
		理容室（経営者）	・進学、就職などで、一気に顧客が減った。新規の客はすぐには入ってこないの、当分は期待できない。ゴールデンウィークに入ると、客がばらけてかえって暇になる。
		設計事務所（代表）	・金利が若干上がってきている。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・年度初めが終わると、売上は低迷する。キャンペーンなどを利用しなければならぬ。基本的に景気は上昇傾向とは言えない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・ギフトがメインなので、通常、新しい販売経路や販売方法を探さないと夏に向かって悪くなる。
		高級レストラン（支配人）	・翌月の予約が少ない。
		スナック（経営者）	・3～4月は、わずかだが前年度を下回っている。今まで半月で前年を下回っても翌月で取り返したが、それができなかった。
		タクシー運転手	・年金所得が目減りしているの、あまり期待できない。最近、野菜の値上がりが激しいが、値上がり分の出費が影響して、タクシー利用が減るだろう。
		タクシー運転手	・これから雨の季節なので、タクシー利用が増えることを期待したいが、財布のひもは固いだろう。消費税が上がってから特に客が減っているようだ。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・報酬改定の影響がかなり大きく、今後も厳しい環境が想定される。
		音楽教室（管理担当）	・受験生は塾通いが多くなり、お稽古事は減らされる。
		設計事務所（所長）	・3か月先の見込みが立っておらず、やや悪くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・給与のベースアップ等を実施している企業もあるようだが、まだ非常に厳しい。需要の冷え込みもみえているので、若干景気は悪くなるだろう。
	悪くなる	衣料品専門店（店長）	・消費税増税もあり、年金生活者にとっては景気が良くなる要素がない。特に主婦は買物に慎重になっている。
		高級レストラン（経営者）	・4月は選挙で客が遠退いた。5月はゴールデンウィークが影響して、客の動きは毎年鈍くなる。現状、5月の客の予約状況を見ると、4月よりは良いが、依然厳しい状態である。今後、良くなるような兆しが無い。
企業動向関連	良くなる	電気機械器具製造業（取締役）	・リスクを取って安定した収益源を早めに見つけ、実現した企業が更に強さを増していくと予想している。
		建設業（経営者）	・賃金が上がっているの、消費が膨らんでいって景気が良くなる。
(九州)	やや良くなる	繊維工業（営業担当）	・閑散期を抜けるので今月より良くなって当然だが、工賃の面でも上がっていく。

家具製造業（従業員）	・商業施設向けの家具の需要が増えており、大型物件の見積が、前年比で2割ほど増えた。家具小売店への供給も、低価格商品だけでなく、ややミドルレンジの商品が増えている。
出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・自治体に、平成27年度の国勢調査に向けた地図の導入を提案。5～6月の購入が見込まれる。
化学工業（総務担当）	・賃上げが予想される。
金属製品製造業（事業統括）	・東京オリンピックのインフラ整備に伴う、設備投資の増加を期待している。
一般機械器具製造業（経営者）	・決算が終わり新年度に入った。例年、この2～3か月は、若干上向きになっていく。
電気機械器具製造業（経営者）	・生産増加が続いており、求人もしている。この状態が続けば、大変明るい見通しになる。4～6月までの3か月の状況が安定していれば、景気は良い方向に確定する。
輸送用機械器具製造業（営業担当）	・海外向け車両が好調で、増産計画がある。
その他製造業（産業廃物処理業）	・顧客の設備入替えが予定されており、販売量増加を見込んでいる。
輸送業（総務）	・燃料価格は落ち着いている。ゴールデンウィークもあり、やや良くなると予想している。
通信業（職員）	・受注の可能性がある案件が数件出ており、前年比で受注量が増える可能性が高い。
通信業（経理担当）	・引き続き、マイナンバー制への対応を中心に、受注を見込んでいる。
金融業（従業員）	・建設・運輸・飲食業などを中心に人手不足感が強まっており、給与引上げの動きも広がりつつある。自動車関連企業や金属関連企業の稼働率が上昇しているなど、地元中小企業を取り巻く環境が好転してきている。
金融業（営業）	・高水準の生産高をキープしている製造業であるが、現在設備投資も活発であり、数か月後には生産能力が高まると考える。円安による受注の国内回帰も続けば、景気は上向くと考える。
不動産業（従業員）	・各企業の設備投資が増加傾向にある。
広告代理店（従業員）	・前年割れの状態が続いているなかで、2～3月に比べて、3～4月は若干上向いている。
経営コンサルタント（社員）	・低価格より高額の「こだわり」商品が動いている。
経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先からは、今後も人材採用及び人材教育にお金を投じる方針であると聞くことが多い。
その他サービス業〔物産リース〕（支社長）	・3月決算企業の取引先にヒアリングすると、売上は微増だが増益基調の企業が多い。
農林水産業（経営者）	・豚の疫病や円安による輸入抑制が追い風になり、鶏は好調に推移する見込みである。5月～梅雨明け以降、かなりの引き合いがありそうだ。タタキや炭焼き等、地元加工品が順調で、夏になれば更に大きな伸びが期待ができる。
農林水産業（営業）	・輸入品の状況と天候にも左右されるが、今後2～3か月間は良い状態が続くだろう。
食料品製造業（経営者）	・端境期に入り減産になるが、比較的安定した販売が見込める。
窯業・土石製品製造業（経営者）	・既存商品の受注が落ち込んでおり、新製品の動向次第である。受注に確実性がないので何とも言えない。
鉄鋼業（経営者）	・足元の受注数量が若干増えているが、このまま継続するかは全く不透明である。顧客は、去年の11月ごろから資材の購入を控えており、購入の動きは長続きしないようだ。鉄筋加工業者も、手持ちの契約は減っている様子である。
一般機械器具製造業（経営者）	・機械設備の受注が延期になったりしている。客の声や引き合い状況を考えると、今後の景気が大きく変わる気配は少ない。
建設業（従業員）	・見積案件が少なく、民間の設備投資は停滞している。新築物件は少ないが、マンションの外壁が修繕時期にきているので改修工事の受注に結びつけていきたい。
輸送業（従業員）	・関東や関西では倉庫不足と聞かすが、九州は中小企業が多く、既存の倉庫で足りているようだ。荷動きが今後良くなるような話は、今のところ聞いていない。
輸送業（総務担当）	・衣料品と食料品の荷動きが悪い状態である。しばらくはこのままで推移する。
金融業（従業員）	・企業については大きな変化はみられない。個人は給与が上がりつつあり、ボーナスも上がると予想されているが、税金面、特に軽自動車税の影響が大きく、所得増と相殺されるので、変わらないだろう。
金融業（調査担当）	・倒産件数も低調で、資金需要も安定している。

変わらない

	金融業（営業担当）	・中小企業全般で、賃上げ実施がまだほとんどない状態である。十分に利益が出ておらず、景気は当面変わらない。
	広告代理店（従業員）	・4月は前年比で受注が100%を超える見込みである。ようやく消費税増税後の下降傾向に終止符が打てそうだ。昨年後半に料金改定などがあり、今年度の受注金額は増加しそうだ。
	経営コンサルタント	・異動の時期を終えたので、これからに期待したいが、急に活発な動きはないだろう。
やや悪くなる	精密機械器具製造業（従業員）	・3か月先まで見通しが見つからない状況にある。
	建設業（社員）	・官公庁から公表された第1四半期の発注予定をみれば期待が持てるが、実際は発注が遅れるとの情報もある。建設業者は年度初めが一番苦しい。
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・市町村は「地域創生」案件以外の事業予算が少ないため、関連する調査や委託業務を受注できない小規模なコンサルタントは、受注が激減するおそれがある。
悪くなる		
雇用 関連	良くなる	-
(九州)	やや良くなる	人材派遣会社（社員）
		・お中元に向けた動きが出てくる時期である。鹿児島市ではプレミアム付商品券を約61億円分販売するので、消費が増え、人手不足から採用の動きもできそうである。
		職業安定所（職員）
		・多くの業種で人手不足が続いており、賃金などの求人条件を改善しようとする企業が増えつつある。求人条件の改善に合わせて、従業員への労働条件のアップが期待される。
		職業安定所（職業紹介）
		・正社員求人数は前年同月比で増加しており、この傾向は今後も続く。
		学校〔大学〕（就職支援業務）
		・中小企業では5～6月をピークに採用選考を実施する企業が多くなると予想され、新卒学生の内々定獲得が活発化する。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・同業大手間の競争が、一段と激しくなっている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新年度に入り、求人や新卒の採用なども一息ついている。消費税増税も1年先に延び、しばらくは落ち着いている。
	職業安定所（職員）	・求人数の一年間の推移をみると、月ごとに増減を繰り返している業種が多い。今後もあまり業況は変わらない。
	職業安定所（職員）	・新規求人が増加する傾向はまだ続くだろう。月間有効求人倍率は12～2月は1倍を超えた。この傾向は続くと思われる。
	民間職業紹介機関（社員）	・既存客の動きも少ないが依頼も伸びず、横ばい状態である。
	民間職業紹介機関（支店長）	・製造業、介護、建設業の人手不足が、人材派遣の需要をけん引するわけではないので、専門職の人材需要はほとんど横ばい状態である。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・企業へのヒアリングによると、現在の求人環境はすぐには大きく変化しない。
やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-